

【様式 3-2. 公開用報告書】

全国 YMCA ユースチャレンジ 2021 ホームページ公開用報告書

1. プロジェクト概要と実施内容（目安：1 頁-3 頁）

*写真を添付し、実施期間中の概要をわかりやすく説明してください

【経緯】

私たちは、2017年度より東大阪地域ユースボランティアリーダー会の地域活動の一環で、「子ども広場」という地域の子どもたちと夕食を共にすることを通した居場所づくりに取り組んできました。しかし、2020年3月よりコロナ禍の影響で、お世話になっていた社会福祉法人大阪YMCAサンホームの利用が難しくなったこと、食事を含む活動であるため感染拡大の危険が伴うこと、市からの助成金が得られなくなったことなどの要因により活動が困難な状況にありました。

そこで、「子ども広場」を現在の状況でも実施可能な形で再開したいと考え、今回のプロジェクトを企画しました。以前と同様に、東大阪市の留守家庭児童の受け入れ場所の不足という問題に着目し、主に八戸ノ里駅周辺の子どもたちを対象に「子どもたちの安心できる居場所」の提供を目指しました。「心の貧困」に焦点をあてることなど大切にしたいことはそのままに、感染拡大の状況を鑑みて活動場所、時間、食事の有無、頻度などの検討を行いました。

【当日までのスケジュール】

月日	会議名	主な打合せ内容
7月28日	子ども広場ミーティング①	ねらい、開始時期の検討
8月11日	子ども広場ミーティング②	
8月25日	子ども広場ミーティング③	場所や夕食について検討
9月1日	子ども広場ミーティング④	
9月29日	子ども広場ミーティング⑤	場所や夕食について決定
10月11, 25日	子ども広場 第1, 2回 評価会	
11月8, 29日	子ども広場 第3, 4回 評価会	実施形態の検討
12月6, 15日	子ども広場 第5, 6回 評価会	全体への案内や説明等

1月31日	子ども広場 第7回 評価会	来年度への改善点共有
2月7日	子ども広場 第8、9回 評価会	
3月7,14日	子ども広場 第10、11回 評価会	
3月18日	総合評価会	

【活動の様子】

①16:00～16:30 サンホームに集合

ボランティアリーダーやスタッフ、子ども達が、以前の活動場所である社会福祉法人大阪 YMCA サンホームのロビーに集まります。ここで検温やアルコール消毒を済ませ、今日の学校での出来事や最近のことについて話したり、宿題をしたりして、全員が集まるのを待ちます。



②16:45～17:00 サンホームから東大阪市立文化創造館へ



参加する子ども達が揃うと、子どもたちにも馴染みが深い文化創造館へ移動します。道中でもたくさんのお話を楽しんでいます。

施設につくと受付でカギと書類をもらい、その日の部屋へ移動します。

③17:00～18:25 活動

その日にする遊びは、子ども達で話し合ったり、リーダーから提案したりして決めます。ボールを使って遊びたい子どもが室内でもできるようにルールを考

えて発表したり、リーダー対子ども達で物を隠して探す宝探しゲームをしたり、机に座ってジェンガやカードゲーム・折り紙を楽しんだり、日によって様々です。毎回違った遊びを提案して楽しむ子どもたちの発想力には驚かされます。



④18：25～18：40 いいところ探し



活動終了時に、自分が見つけたお友だちや自分のいいところやそのエピソード、今日楽しかったこと・面白かったことを伝え合います。最初は照れて話さない子どもたちもいますが、リーダーや他のお友だちに伝えてもらおうと嬉しそうにして、少しずつ話してくれることもありました。「いいな」と

思うような出来事を伝え合うことで、自信を持ったり、それ以降の活動で「またしてみようかな」と思ったりと「安心できる居場所づくり」につながればいいなと思っています。

⑤18：45～19：00 東大阪市立文化創造館からサンホームへ 解散

部屋を掃除し、使った机などを協力して片付け、文化創造館を後にします。サンホームにつくと、ロビーで保護者のお迎えを待ちながら、サンホームの職員の方々とのお話を楽しみます。保護者の方が来られると、今日あった出来事や遊びについてリーダーからお話をします。

⑥19：00～19：40 片づけ、評価会

使った備品を片づけ、その日の活動の様子、気になったこと、改善点などを話し合います。話し合いの内容は記録し、その日活動に来られなかったリーダーにも共有できるようにします。

2. このプロジェクトを通じて考えたこと（目安：1頁）

*代表者の方の目線で、プロジェクト参加者たちがこのプロジェクトを通して学んだことや考えたことをまとめてください。

子どもたちにとっては、異年齢の関わりや自由に遊びをつくっていく時間を通して、安心感を得て、人と関わる力を育むことにつながったのではないかと思います。特に、「いいところ探し」という活動は、重要であったと考えます。「いいところ探し」とは、活動終了時に互いの良いところや楽しかったこと、してもらって嬉しかったことなどを伝え合う時間のことを指します。自分のしたい遊びを考え、伝え合い共に遊んだ後に、子どもたちやリーダーが互いに自分の感じたことを伝え合うことは、子どもたちにとって意味のあるものだったと感じました。

そして企画を進めたボランティアリーダーにとっては、地域子ども達に対して自分たちはなにが出来るか考える機会、そして企画したことを実現していく貴重な経験になったのではないかと思います。これまでも地域活動や野外事業などの活動を通して子ども達と関わってきましたが、自分たちが子ども達にとってどんなことが出来るか・どんなことが求められているかを、地域の問題から改めて考えて企画していくことは新鮮な体験でした。これまでのやり方を踏襲するだけでは現在の世間の状況に合わないことも多く、悩むことも多かったです。特に感染状況によって開催時期や食事の有無を変更していく時には、判断基準をどこに置くかについて決めることが難しく、話し合いを重ねました。そういった経験を通して、思いを形にする難しさを感じるとともに、思いを実現させ

ることで生じる達成感は大きいことを知りました。

そして、今回の企画を進めるにあたって、様々な方にご協力いただきました。暖かいご協力がなければ、実現しえなかったと感じます。

3. 今後、ユースチャレンジを希望する人へのアドバイス（目安：半頁-1頁）

今回私たちがユースチャレンジを応募するに至った経緯は、今まで続けていた子ども広場をコロナ化においてどうすれば再開・実現できるのか、悩んでいたことから始まりました。コロナ化という中で、以前と同じようにできないことも増えていると思いますが「できない」とあきらめるのではなく、この状況においてできること、その方法を探していく姿勢をもつことが大切だと改めて感じました。今、自分の中で「こんなことがしてみたい！」「この現状を変えたい！」という思いをもっているのであれば、ユースチャレンジの機会を利用し、「応募する」という行動が大きな一歩になるのではないかと思います。

また私たちは申請が決まり、子ども広場の再開が決定した後にも、SNSや周りの人に発信することも大切にしてきました。そのことがきっかけとなって、たくさんの方が声をかけてくれたり「こんなことはどうだろうか」と、提案して下さったりすることもあり、どんどんと輪がひろがっていくことを感じました。自分たちが思いをもって活動していることに自信をもち、ぜひ周りの人へも発信し続けてほしいと思います。このチャレンジが、これからも皆さんの新しい一歩を後押しするきっかけとなるよう心から願っています。